

# 生産 — 米 —

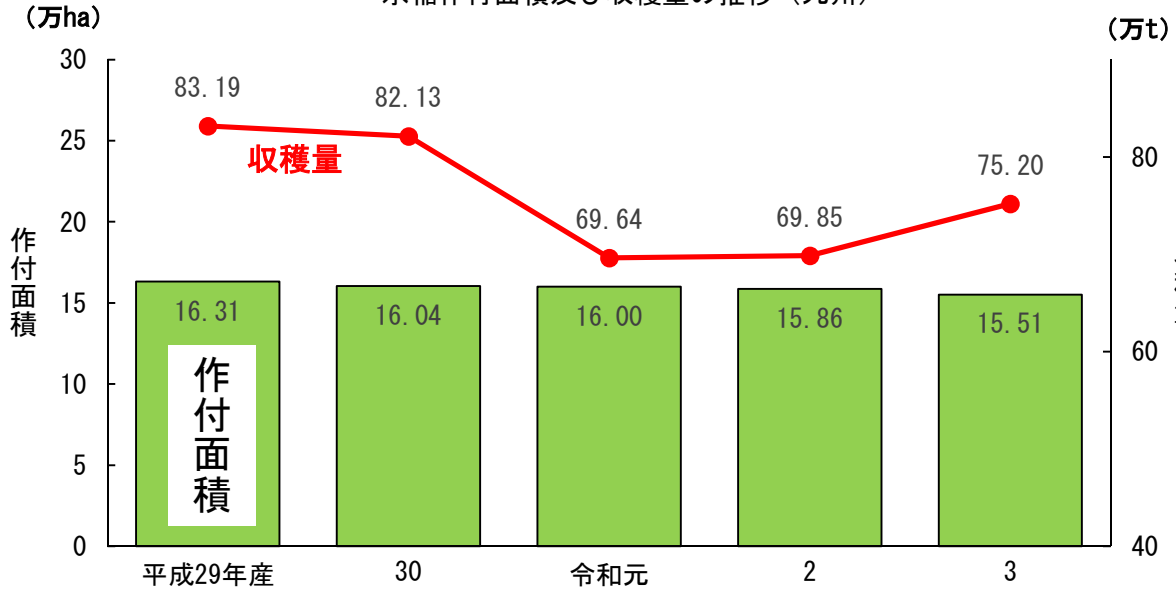
【水稲の収穫量(子実用\*)は75万2,000 t (前年産に比べ53,500 t 増加)】

令和3(2021)年産水稲の九州の作付面積(子実用)は、15万5,100haで前年産に比べ3,500 ha減少しました。作柄は、8月の長雨による日照不足等はあったものの概ね天候に恵まれ、10a当たり収量は、485kg(作況指数99)で、収穫量(子実用)は、作柄が悪かった前年産から53,500 t 増加し75万2,000 t となりました。

また、「令和3年産米の食味ランキング((一財)日本穀物検定協会)では、九州で6銘柄が最高評価の「特A」を獲得しています。

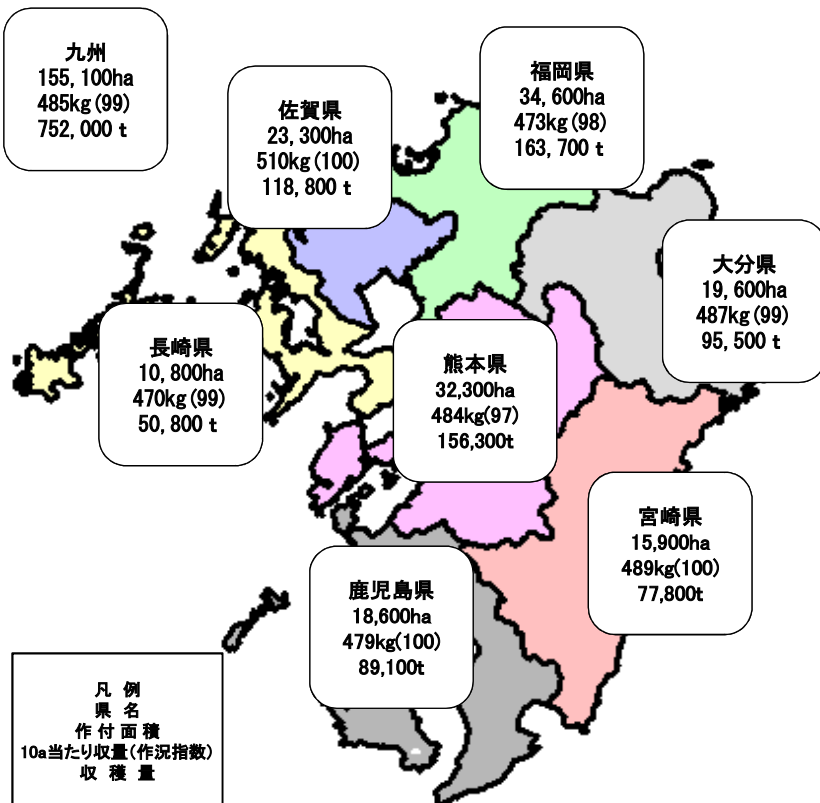
\* 主に食用に供すること(子実生産)を目的とするものをいい、全体から「青刈り」を除いたものをいう。

水稲作付面積及び収穫量の推移(九州)



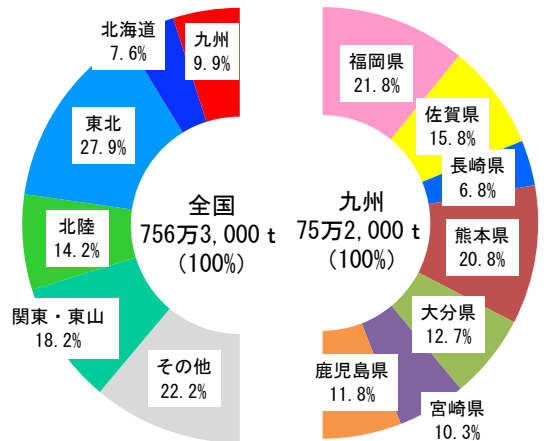
資料：農林水産省「作物統計」

県別作付面積及び収穫量



資料：九州農政局作成

令和3(2021)年産 収穫量の全国及び九州内割合



令和3(2021)年産食味試験結果 (九州特A一覽)

産地	品種名	地区
福岡県	元気つくし	
佐賀県	さがびより	
熊本県	ヒノヒカリ	県北
大分県	ひとめぼれ	西部
		北部
宮崎県	ヒノヒカリ	西北山間
		霧島

資料：(一財)日本穀物検定協会

# 生産 — 麦類・大豆 —

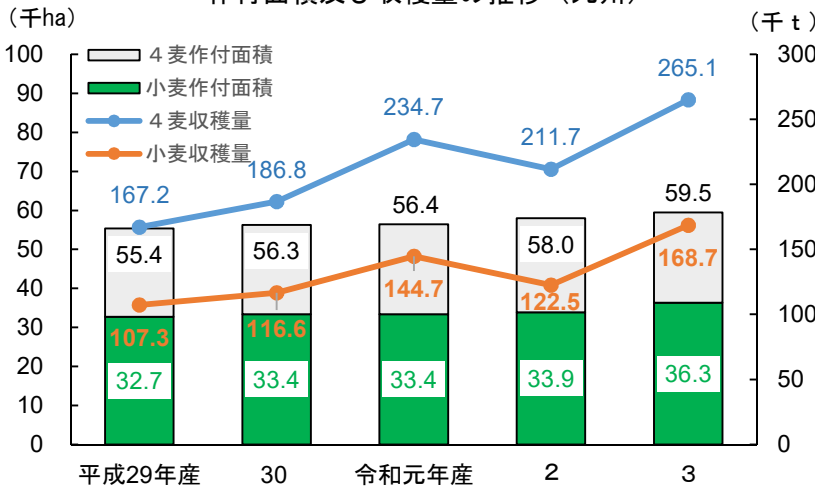
## 【4麦の作付面積は、前年産に比べ1,500ha増加】

令和3(2021)年産4麦計(子実用\*) (小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦)の作付面積は5万9,500haで前年産に比べ1,500ha増加しました。収穫量は26万5,100tで、前年産に比べ5万3,400t増加し豊作でした。九州の全国に占める割合は、19.9%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

4麦の中で最も多い小麦の作付面積は、3万6,300haで前年産に比べ2,400ha増加し、収穫量は16万8,700tとなりました。天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったことから、前年産より4万6,200t増加しています。

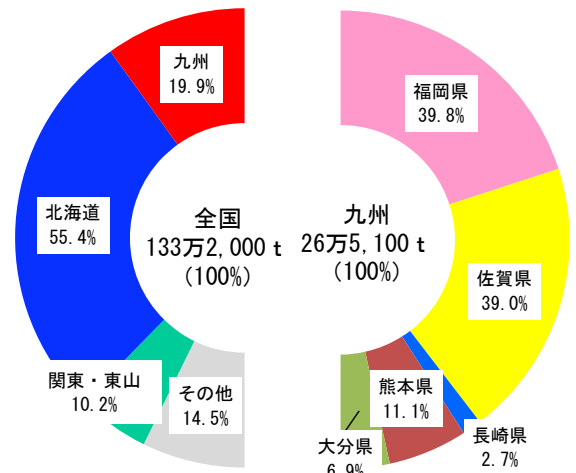
\* 主に食用にすること(子実生産)を目的とするものをいう。

作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和3(2021)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

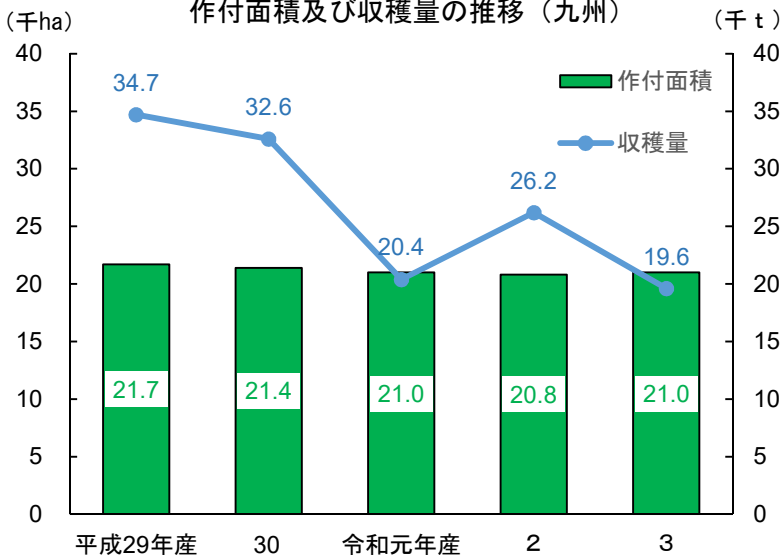
## 【大豆の収穫量は、前年産に比べ6,600t減少】

令和3(2021)年産大豆(乾燥子実\*)の作付面積は2万1,000haで前年産に比べ200ha増加、収穫量は1万9,600tで前年産に比べ6,600t減少しました。九州の全国に占める割合は、8%となっており、福岡、佐賀、熊本で約9割を生産しています。

主産地の福岡県及び佐賀県においては、8月の豪雨による枯死株や黄化株の発生、10月の少雨による落葉の早まり等により、作柄は平年より大幅に低下しました。

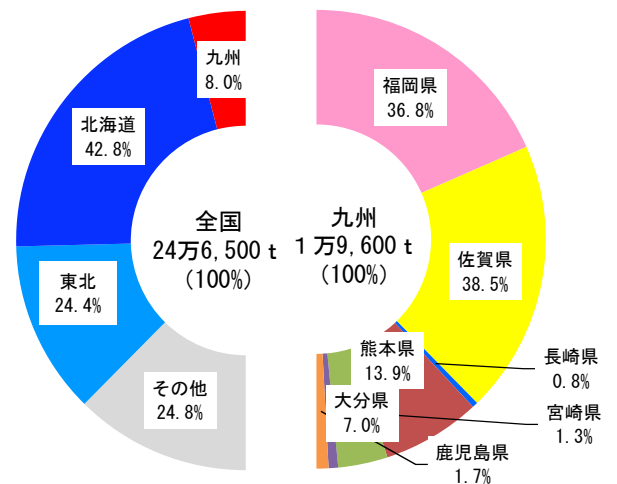
\* 食用を目的に未成熟(完熟期以前)で収穫されるもの(えだまめ)を除いたものをいう。

作付面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「作物統計」

令和3(2021)年産 収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

# 生産 — 野菜 —

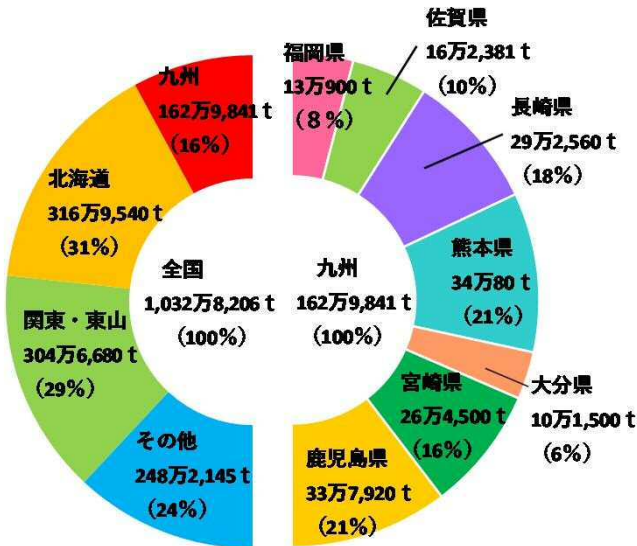
## 【九州は重要な野菜供給基地】

九州では、温暖な気候を生かした野菜の栽培が盛んです。令和2（2020）年産の九州における指定野菜（14品目\*）の収穫量は、ピーマン、トマト等の施設野菜やさといも、だいこん等の露地野菜を中心に全国の15.8%、野菜の産出額では全国の19.3%を占めています。九州の産出額に占める野菜の割合は24.9%で、畜産の46.8%に次ぐ重要な品目となっています。

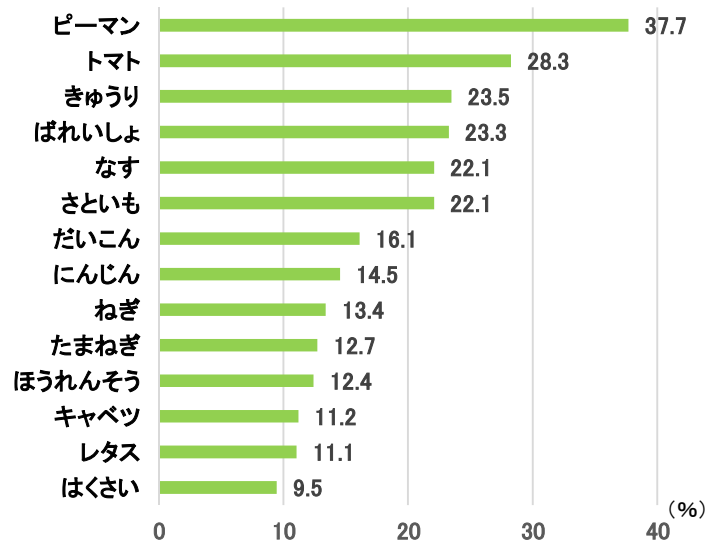
産出額で全国に占める割合が高い品目は、ピーマン（37.7%、宮崎県全国2位、鹿児島県全国3位）、トマト（28.3%、熊本県全国1位）、きゅうり（23.5%、宮崎県全国1位）、ばれいしょ（23.3%、鹿児島県全国2位、長崎県全国3位）の順となっています。指定野菜以外では、いちご（37.4%、福岡県全国2位、熊本県全国3位、長崎県全国4位）、かんしょ（27.3%、鹿児島県全国3位、宮崎県全国5位）、すいか（23.8%、熊本県全国1位）などです。

\*指定野菜とは、野菜のうち特に消費量の多いもの（下右のグラフの14品目）

令和2（2020）年  
指定野菜収穫量の全国シェア及び九州内割合



令和2（2020）年  
九州の指定野菜産出額の全国シェア

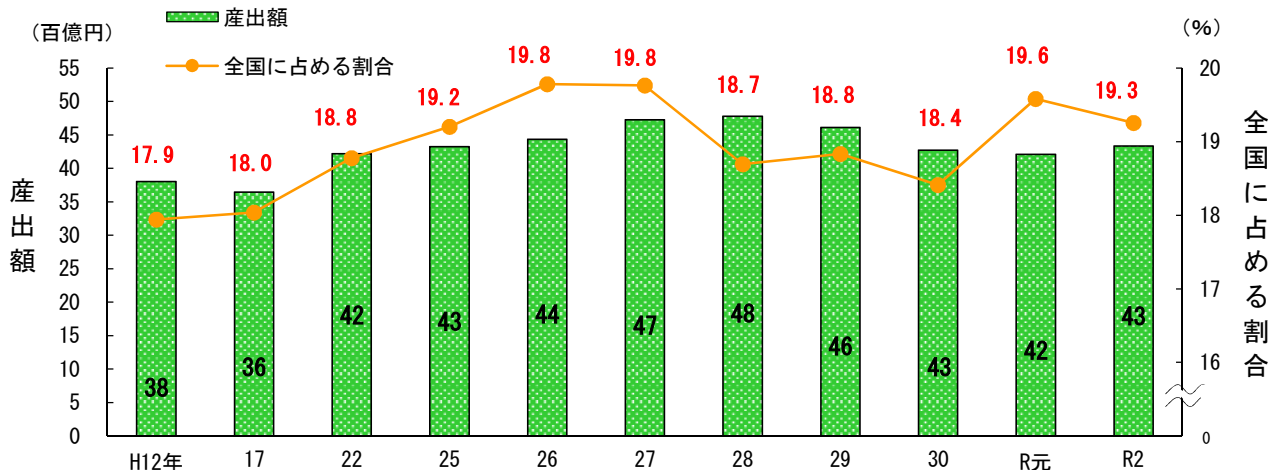


資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」

注：野菜生産出荷統計結果を基に九州農政局において主産県を集計した値

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

九州の野菜の産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

# 生産 — 果樹 —

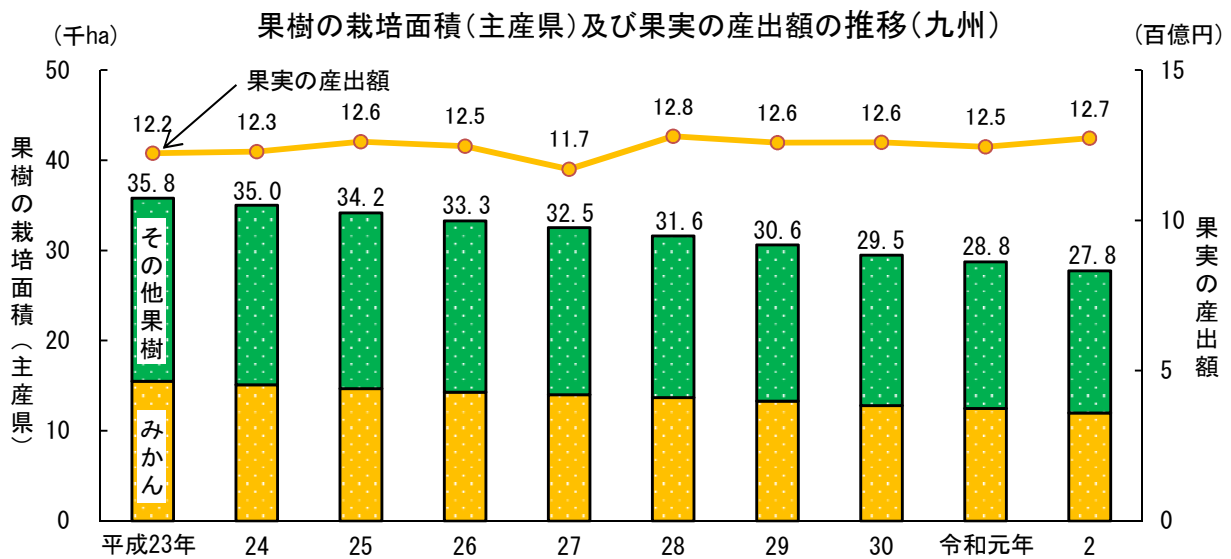
## 【栽培面積は減少傾向にあるものの産出額は横ばい】

九州における果樹の栽培面積（主産県\*）は、生産者の高齢化や担い手不足の進行による栽培農家数の減少に伴い、緩やかな減少傾向にあり、令和2（2020）年は2万7,800haとなっています。一方、果実の産出額は、高品質な果実の生産が行われていることから、ほぼ横ばいの1,273億円となっています。

特に九州が全国の収穫量の約3割を占めるみかんでは、結果樹面積が1万1,500haで前年産に比べ400ha（3.4%）減少しており、収穫量は22万4,700tで前年産に比べ11,100t（4.7%）減少しています。また、九州の収穫量のうち、熊本県、長崎県、佐賀県で8割近くを占めています。

その他果実の産出額は、ぶどう153億円（全国の8.8%）、日本なし98億円（同13.8%）、しらぬい116億円（同69.5%、熊本県全国1位）、マンゴー49億円（同64.5%、宮崎県全国1位）となっています。

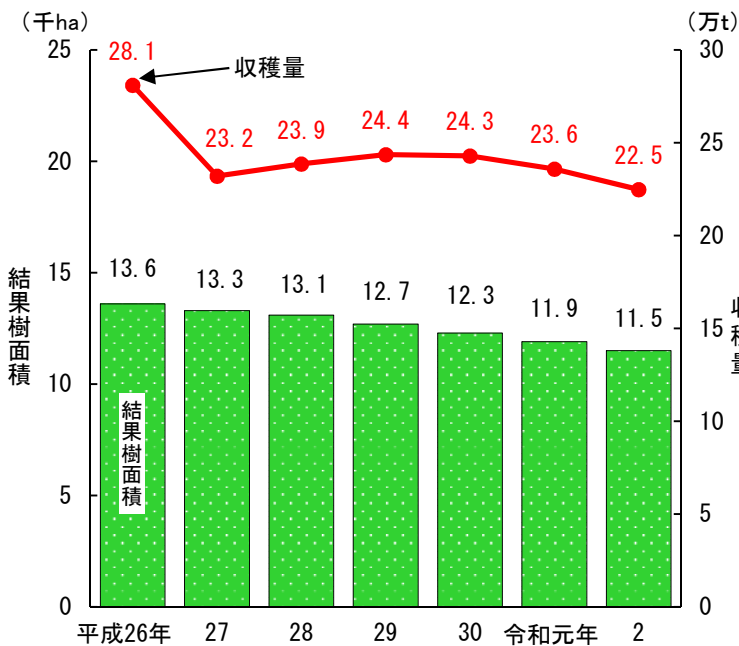
\* 主産県とは、全国の栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県



資料：農林水産省「生産農業所得統計」「耕地及び作付面積統計」

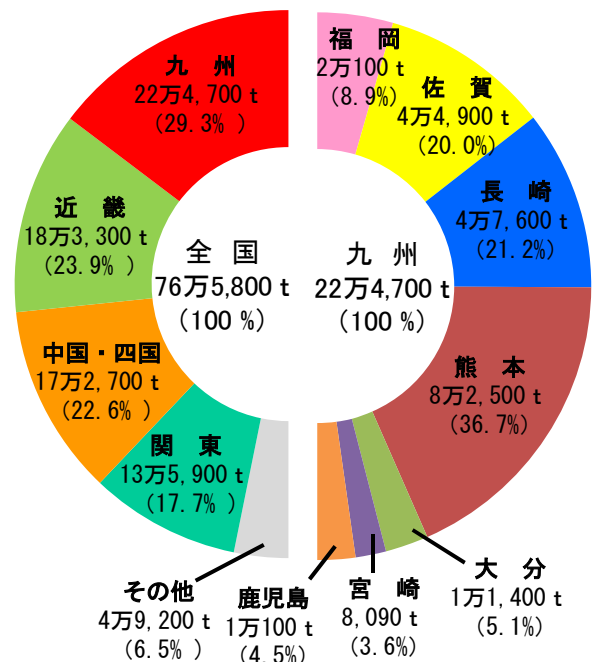
注：その他果樹は、その他のかんきつ類、くり、かき、日本なし、ぶどう、うめ、びわ、キウイフルーツ、すもも

### みかん結果樹面積及び収穫量の推移(九州)



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

### みかん収穫量の全国及び九州内割合



資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」

注：全国地域別は、農政局毎の割合を表示しています。

# 生産 — 花き —

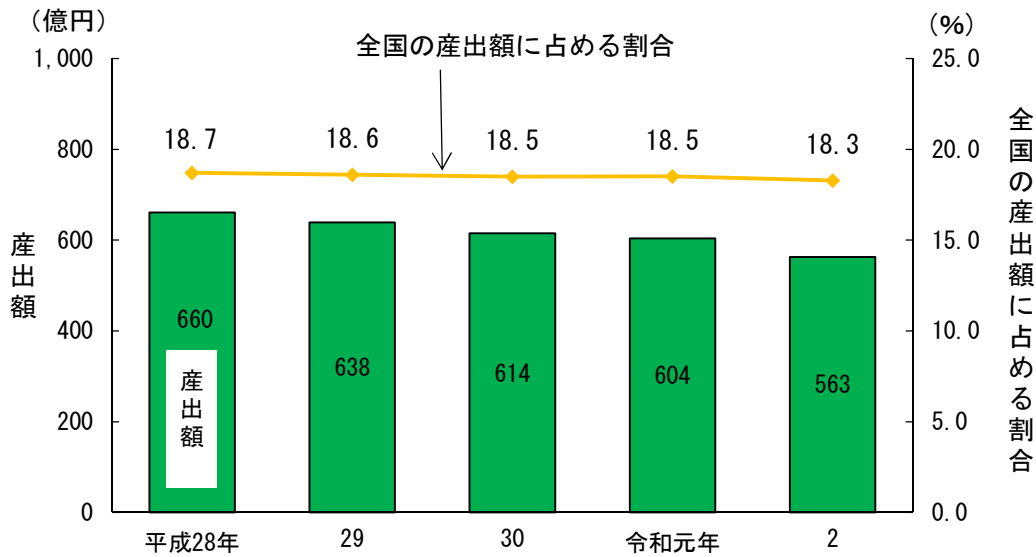
## 【栽培面積、産出額とも漸減傾向】

九州における令和2(2020)年の花きの産出額は563億円で、全国の18.3%を占めており、最近では生産者の高齢化による作付面積の減少が続いていることから、漸減傾向で推移しています。特に令和2(2020)年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、切り花において冠婚葬祭等のイベント自粛から業務用需要は減少し、価格が低下したことが影響したものと考えられます。

令和2(2020)年産切り花の作付面積は2,369haで、前年に比べ73ha(3.0%)減少しています。出荷量は6億5,850万本で、前年に比べ7,950万本(10.8%)減少しているものの、そのシェアは全国の20.2%を占めています。

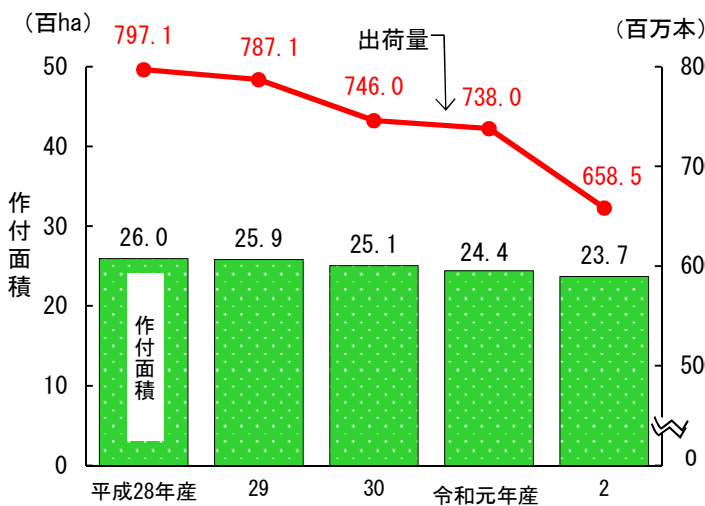
県別の出荷量をみると、洋ランやガーベラ等の生産が盛んな福岡県、きくやゆり等の生産が盛んな鹿児島県の両県で九州の46.8%を占めています。

九州における花きの産出額及び全国に占める割合の推移



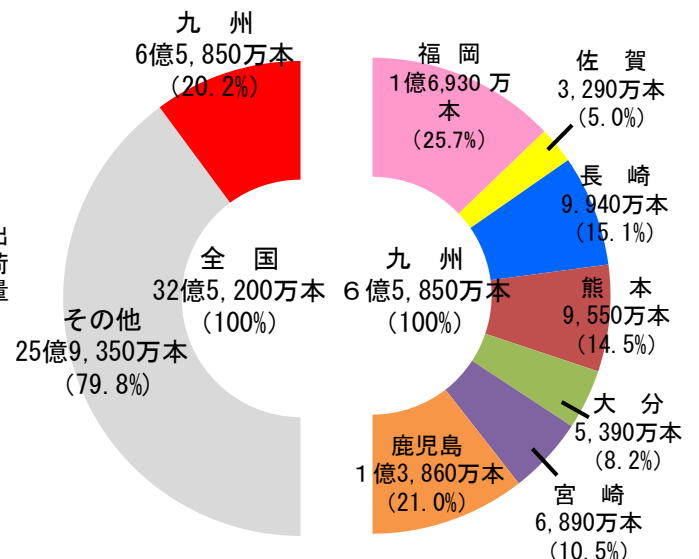
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

花き(切り花類)作付面積及び出荷量の推移(九州)



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

令和2(2020)年産花き(切り花類)出荷量の全国及び九州内割合



# 生産 — 地域特産作物 —

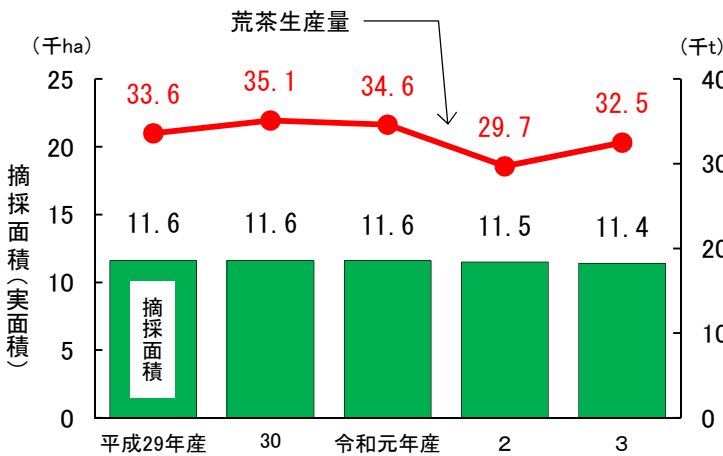
## 【茶：九州（主産県）の荒茶生産量は、前年産に比べ9.4%増加】

九州（主産県\*）の令和3（2021）年産茶の摘採面積は1万1,400haで前年産並みとなっている一方、荒茶生産量は、前年産に比べ2,800t（9.4%）増加し3万2,500tとなっています。

九州（主産県）の荒茶生産量は全国（主産県）の46%を占めており、その中でも鹿児島県は、九州全体の8割以上を占めるなど、全国第2位の産地が形成されています。その他、宮崎県、福岡県でも、煎茶やかぶせ茶等の生産、加工が盛んです。

\* 九州（主産県）は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島合計値

茶摘採面積及び荒茶生産量の推移（九州（主産県））

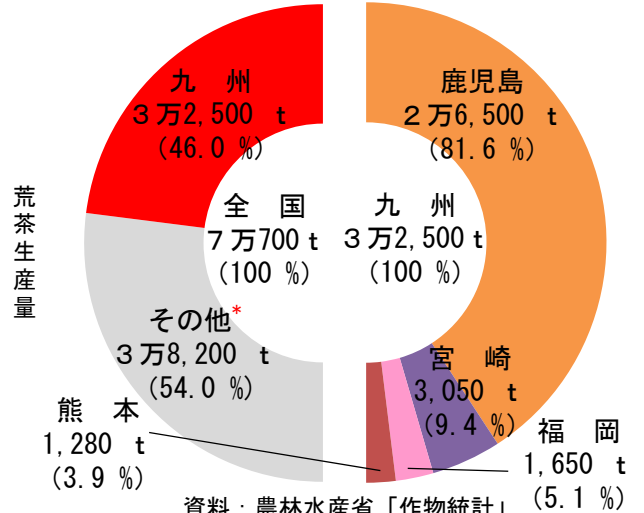


資料：農林水産省「作物統計」

注1：四捨五入（5桁（10,000）の場合下2桁、4桁（1,000）の場合下1桁）により合計値と内訳の計が一致しない。

注2：令和3年産は概数値を使用。

令和3（2021）年産 荒茶生産量の全国（主産県）及び九州内割合



資料：農林水産省「作物統計」

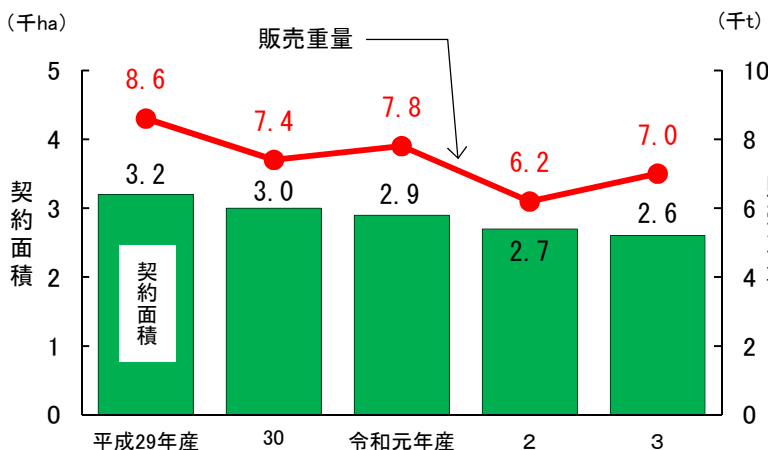
\*その他は、静岡、三重、京都、埼玉の合計値

## 【葉たばこ：需要の低下に伴い契約面積は減少】

九州では温暖な気候から葉たばこの栽培が盛んで、令和3（2021）年産の契約面積は2,574haと全国の45.4%を占めており、販売重量は7,000tと前年産より800t（12.9%）増加しています。

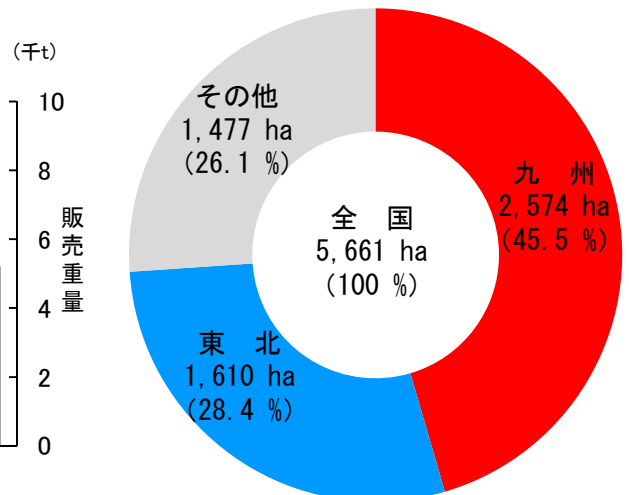
一方、近年の喫煙規制の強化や加熱式たばこの急速な伸展等により、紙巻たばこの需要が大幅に減少し、国産葉の在庫が増加しているため、日本たばこ産業株式会社は、令和4（2022）年産の契約栽培農家に対して廃作の募集を行っています。

葉たばこ契約面積及び販売重量の推移（九州）



資料：全国たばこ耕作組合中央会調べ

契約面積の全国シェア（令和3（2021）年産）



資料：全国たばこ耕作組合中央会調べ

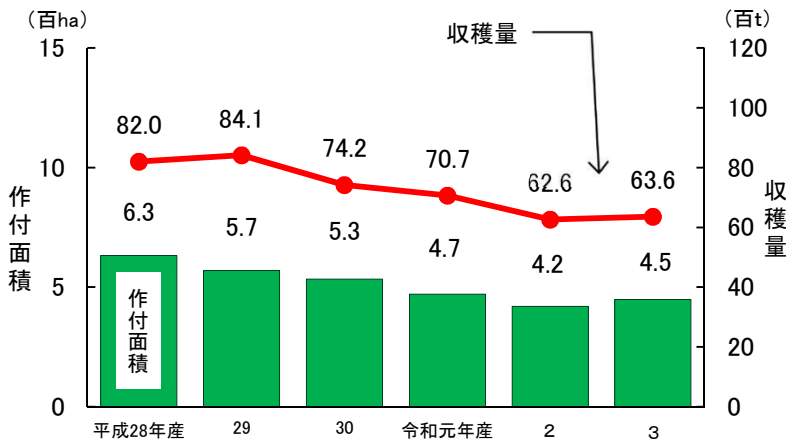
### 【いぐさ：熊本県八代地域の基幹的作物】

いぐさの主産地は熊本県八代地域で、関連産業も含め地域経済を支える基幹作物です。令和3(2021)年産の熊本県のいぐさ収穫量は、全国(主産県\*計)の99.5%を占めています。

一方、生活様式の洋風化や景気低迷に伴う畳表の需要減少、生産農家の高齢化等により栽培農家数は減少しているものの、令和2(2020)年度以降、移植機等の導入によって生産の省力化が図られたことから、令和3(2021)年産の作付面積及び収穫量は増加しています。

\* 主産県は熊本県及び福岡県

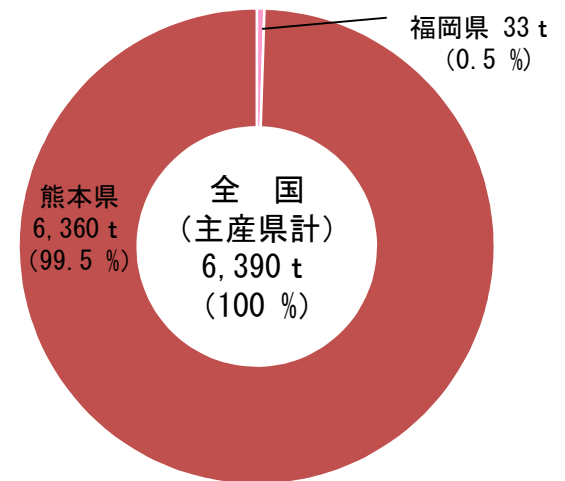
いぐさ作付面積及び収穫量の推移(熊本県)



資料：農林水産省「作物統計」

注：四捨五入(4桁(1,000)の場合下1桁)により合計値と内訳の計が一致しない。

収穫量の全国シェア(令和3(2021)年)



資料：農林水産省「作物統計」

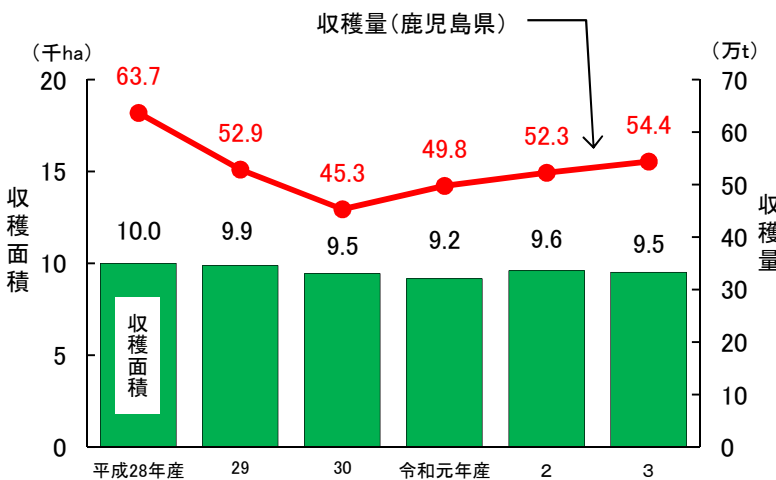
### 【さとうきび：鹿児島県南西諸島の基幹的作物】

さとうきびは、鹿児島県南西諸島及び沖縄県の基幹作物として栽培されています。

近年、鹿児島県のさとうきび収穫面積は横ばい傾向で推移しており、令和3(2021)年産の収穫面積は9,520haとなっています。

一方、収穫量は台風等による影響も少なく、おおむね順調な生育となったことから、前年産に比べ約2.1万t(4%)増加し、54万3,700tとなっています。

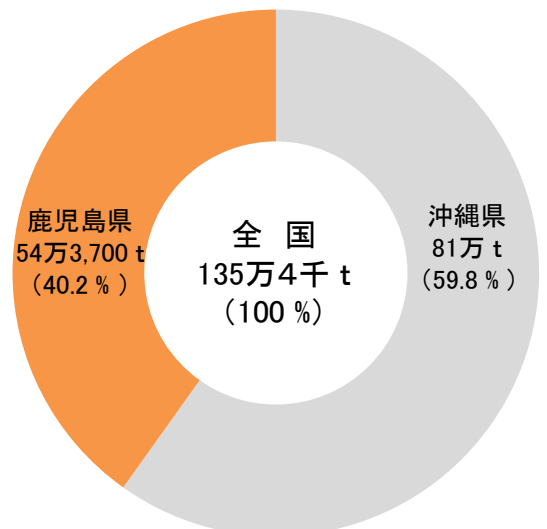
さとうきび収穫面積及び収穫量の推移(鹿児島県)



資料：農林水産省「作物統計」

注：四捨五入(7桁(1,000,000)の場合下3桁)により合計値と内訳の計が一致しない。

収穫量の全国シェア(令和3(2021)年)



資料：農林水産省「作物統計」

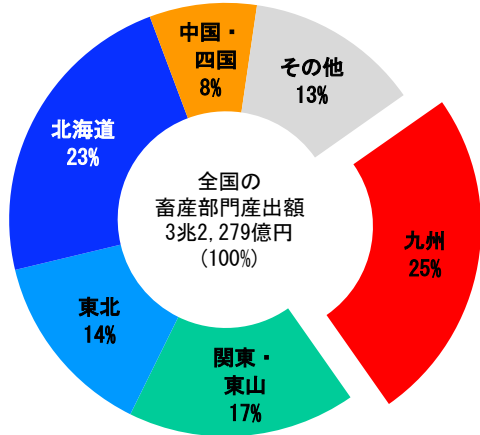
# 生産 — 畜産 —

## 【日本最大の畜産地帯】

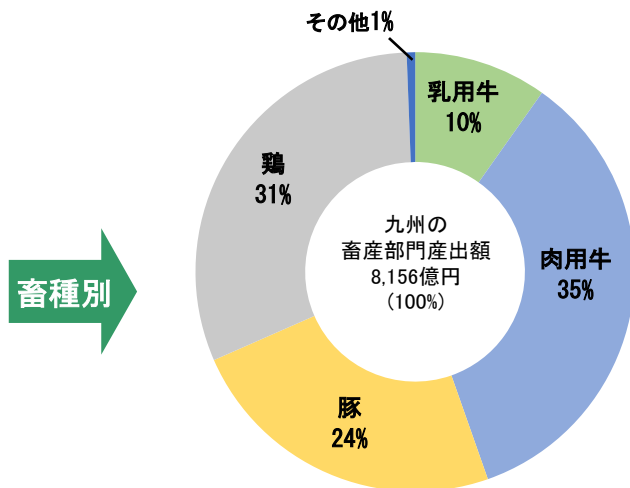
九州の畜産部門の農業産出額は、全国の約25%を占めており、畜種別では、高い順に肉用牛、鶏（鶏卵及びブロイラー）、豚、乳用牛となっています。

また、九州は、肉用牛、豚及びブロイラーの畜種別農業算出額の割合は、それぞれ全国の約4割、約3割、約5割を占め、農業地域別で全国第1位の生産地域であり、我が国最大の食肉供給基地となっています。

農業産出額の畜産部門の全国割合  
(令和2(2020)年)



九州の畜産部門産出額の畜種別割合  
(令和2(2020)年)



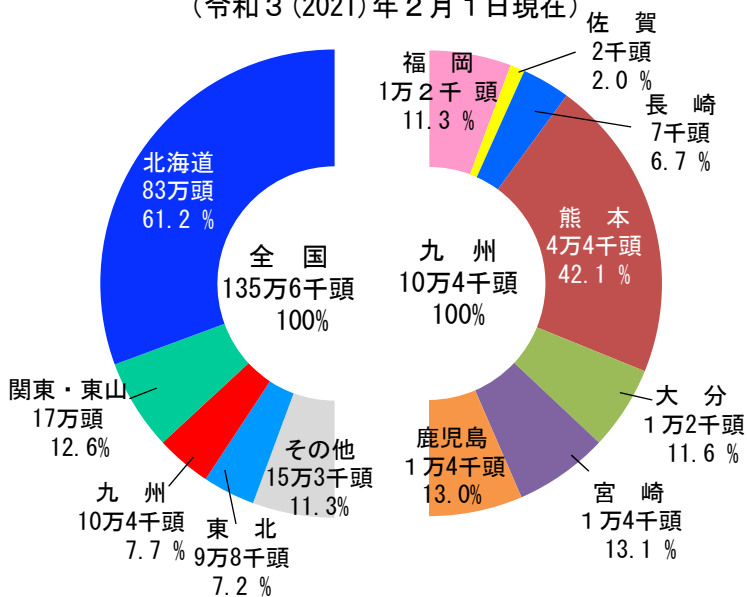
資料:農林水産省「生産農業所得統計」

注: 数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります(以下同じ)。

## 【乳用牛】

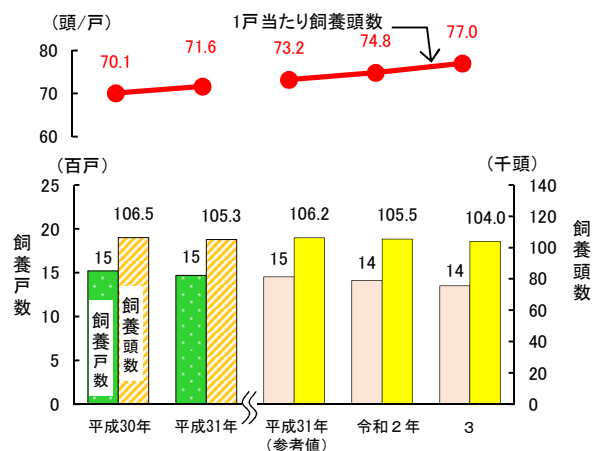
乳用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移しており、令和3(2021)年は昨年度に比べ、1,500頭減少し10万4,000頭となりました。県別の飼養頭数では熊本県が全国第3位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(令和3(2021)年2月1日現在)



資料:農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移(九州)



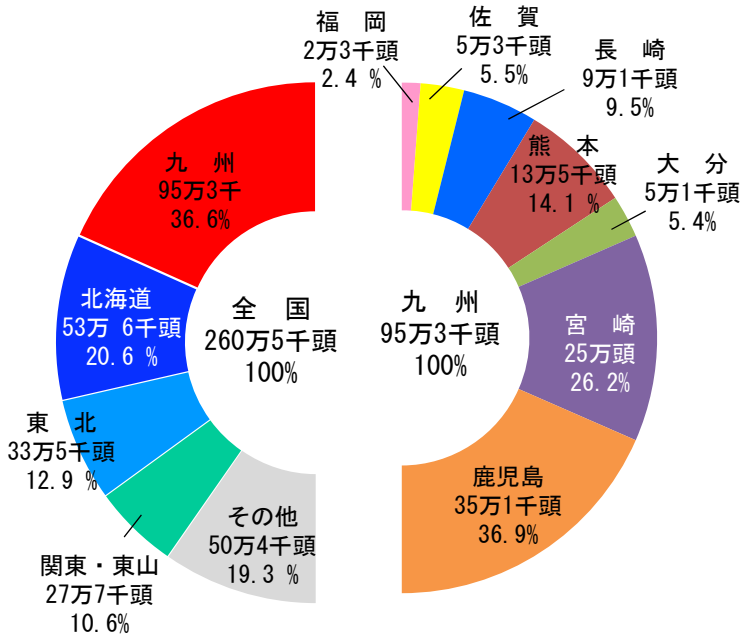
注: 令和2年から統計手法を変更したため、平成31(2019)年以前のデータとは接続しない。  
また、令和2(2020)年の統計手法を用いて集計した平成31(2019)年の数値を参考値として記載しています。



## 【肉用牛】

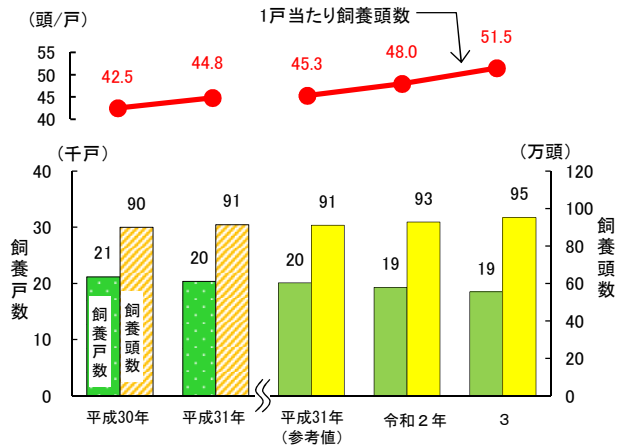
肉用牛の飼養頭数は近年減少傾向で推移していたが、各般の生産基盤強化対策の実施により、平成29(2017)年から5年連続で増加し、令和3(2021)年は昨年度に比べ25,400頭増加し95万2,500頭となりました。九州は全国の飼養頭数の3分の1強を占めており、県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第2位、宮崎県が同3位、熊本県が同4位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(令和3(2021)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移 (九州)

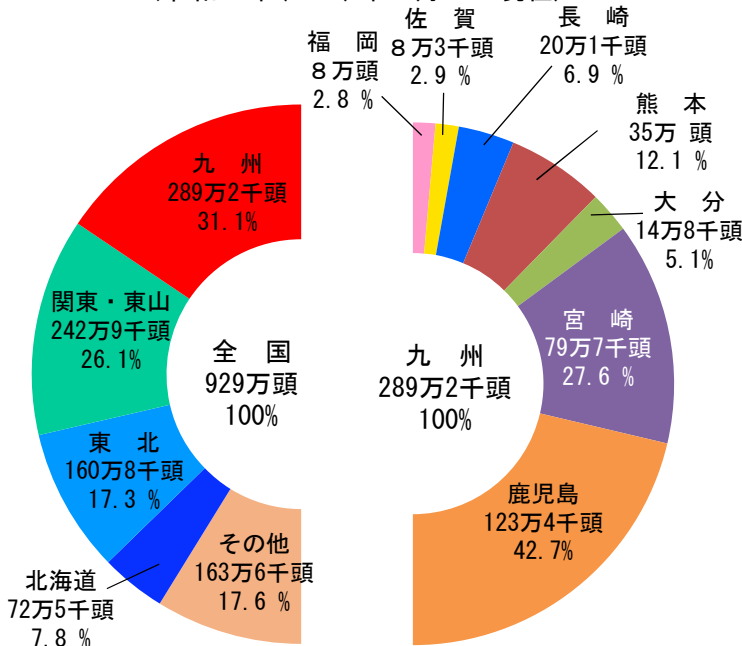


注：令和2年から統計手法を変更したため、平成31(2019)年以前のデータとは接続しない。また、令和2(2020)年の統計手法を用いて集計した平成31(2019)年の数値を参考値として記載しています。

## 【豚】

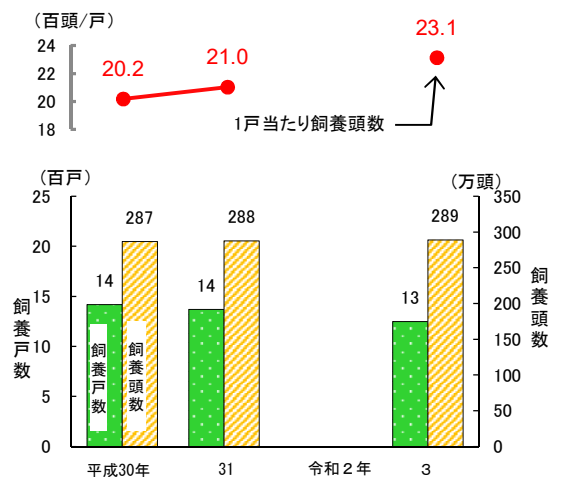
飼養頭数は平成30(2018)年以降微増傾向で推移している、令和3(2021)年は平成31(2019)年に比べ1万3,000頭増加し289万2,000頭となりました。県別の飼養頭数では鹿児島県が全国第1位、宮崎県が同2位となっています。

飼養頭数の全国及び九州内割合  
(令和3年(2021)年2月1日現在)



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数、飼養頭数の推移 (九州)

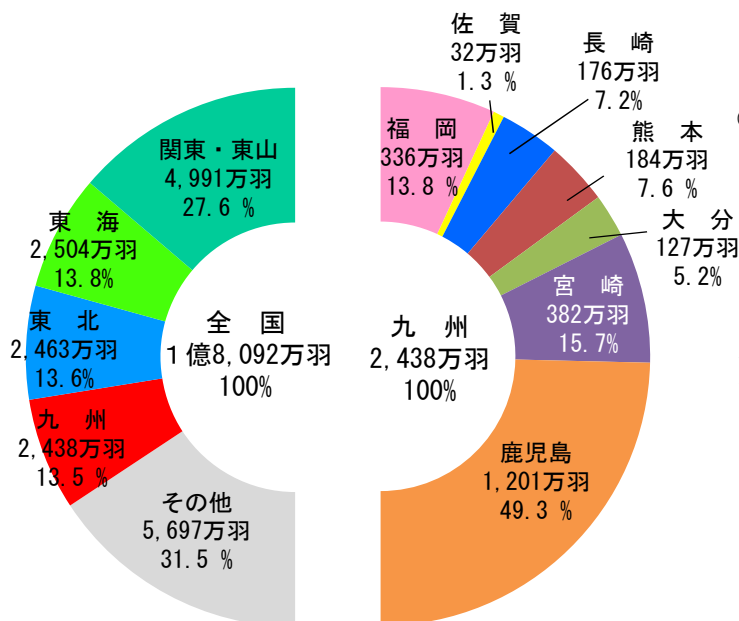


注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「豚」の調査休止。

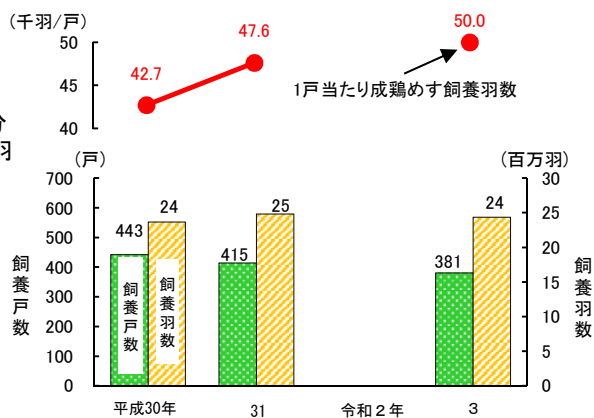
## 【採卵鶏】

近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和3(2021)年は平成31(2019)年に比べ44万2,000羽減少し2,437万9,000羽となりました。県別の飼養羽数では鹿児島県が全国第2位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合  
(令和3年(2021)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



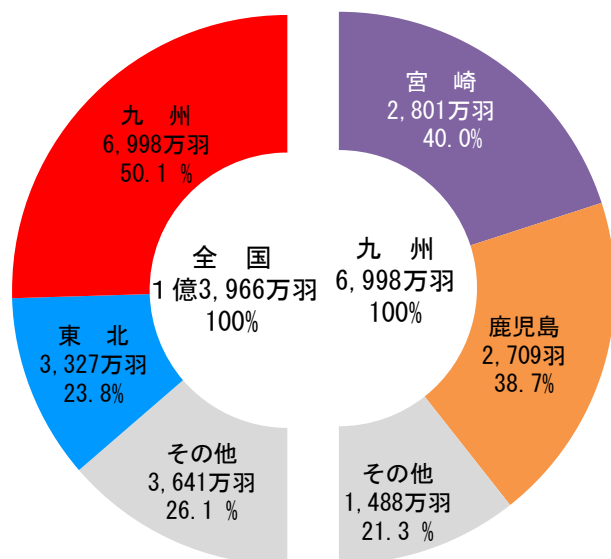
注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「採卵鶏」の調査休止。

資料：農林水産省「畜産統計」

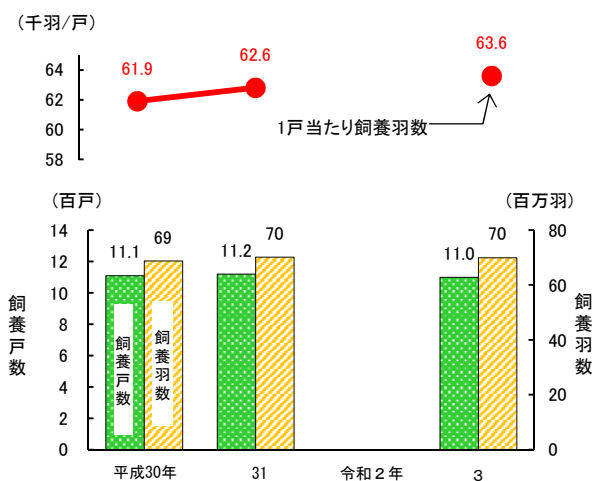
## 【ブロイラー】

近年の飼養羽数は、ほぼ横ばいで推移しており、令和3(2021)年は平成31(2019)年に比べ14万1,000羽減少し6,998万羽となりました。県別の飼養羽数では、宮崎県が全国1位、鹿児島県が同2位となっています。

飼養羽数の全国及び九州内割合  
(令和3年(2021)年2月1日現在)



飼養戸数、飼養羽数の推移(九州)



注：令和2(2020)年は、農林業センサス実施年のため「ブロイラー」の調査休止。

資料：農林水産省「畜産統計」

